

## ■ 共に考え行動し、活動の輪を広げよう！

(老上学区まちづくり協議会)

### 1 【活動の趣旨】

事業を行う中で、単なる参加型から地域の誰もが共に企画し実施する型へ変えていくことで、事業自体の内容が多様化し、活発化し、事業そのものへの関心も深まることを期待して行った。

### 2 【特徴的な活動内容】

○小学生対象事業「わんぱくプラザ老上」年6回の活動より2つ紹介する。

《第1回：6月開催》

今年で3回目となる「きもだめし」、今年は6年生に企画運営に携わってもらった。まちづくりセンターの大会議室や階段、廊下に暗幕をして暗い会場を作り、こどもたちのアイデアを満載に取り入れて大人と一緒に会場を作った。1～5年生は色々な仕掛けやおばけに負けないように会場を周っていた。下級生からは6年生になったら「きもだめし」の企画運営をしたいとの声を聞くことができ大成功に終わった。

《第5回：1月開催》

今年で45回目となる「新春書き初め大会」。毎年恒例の草川薫人先生による大筆パフォーマンスの周囲に小学3年生以上のこどもたちが一文字考えて書き、一文字に込めた思いを発表しあった。その後、草川先生にご指導いただきながら各自書き初め作品を書き上げた。この活動を45年間継続できているのは、草川先生やわんぱくプラザをサポートしていただく地域のみなさんのご尽力のお陰だと感じる。

○8月「老上学区防災フェス」

地域の防災を考えるイベント「老上学区防災フェス」では、小・中学生による「こども実行委員」が大人と一緒に考えて企画した。クイズ、バケツリレーのほか、防災劇では監督・脚本を担う大学生と一緒に練習を重ね、当日は地域の人たちと舞台上に立って劇中から災害時の行動を学びながら、観客に防災の大切さを伝えた。



【きもだめし会場の様子】



【書き初め大会集合写真】



【こども実行委員による

防災劇の一場面】

### 3 【実施に当たっての工夫】

○地域の方との事前会議で目的とこどもたちへの思いを共有する。

○こども実行委員と年齢が近い大学生が主導し意見を出し易い環境を作った。

### 4 【事業の成果】

○長年続くわんぱくプラザ事業の中に新しいアイデアを取り入れて企画した結果、こどもたちの考える力が増したと感じられた。

○こどもの防災への関心が高まり、続く防災訓練への積極的な参加があった。

### 5 【事業の今後の展望】

○児童数が増え続けている小学校区で安全に開催する為の地域の大人サポーターが足りていない中で、どのように事業計画を立てるか検討していく。

○若い世代が地域活動に参加できるような企画を立案し進めていく。